

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース (2015年9月21日11時00分付け)

全羅南道潭陽郡、光州広域市北区の伝統市場でAI抗原検出、一時的な移動停止措置の結果とお盆に備えたAI防疫対策の推進

出典URL:

http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155447232§ion_id=b_sec_1&pageNo=2&year=2015&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N

(機械翻訳等に基づく仮訳)

《 主な内容 》

- ◆ AI常時予察過程で、全羅南道潭陽郡と光州広域市北区の伝統市場内の家きん売場各1か所でH5N8亜型のAIウイルスが検出(9月19日)
 - 発生原因、ウイルス侵入経路などの疫学については現在調査中
 - これまで確認された高病原性AI発生農家(羅州市1か所、康津郡1か所)と当該疑似患畜発生家きん売場(2か所)の両方とも、AI防疫体系改善方案(2014年8月)に基づいて強化された予察検査を介して先制的に確認
 - *常時予察量を3.3倍(2014年比)に拡大して実施中(2014年141,000件→2015年480,000件)
- ◆高病原性AI確定前に実施した光州広域市・全羅南道に対する一時的な移動停止(Standstill)命令*と消毒を介した汚染要因最小化効果を期待
 - 一時的な移動停止に積極的に協力した家きん農家、畜産関連従事者だけでなく、多少の不便を理解・我慢した国民にも感謝
- ◆KTと共同で開発した「ビッグデータベースAI拡散リスクモデル」に基づいたリスク分析の結果を関係機関に通報、ブロック防疫に活用
 - リスクが深刻なレベルである9つの市・郡・区、17の邑・面・洞は消毒と予察強化
- ◆秋夕(動物衛生課注:9月26日~29日)の帰省客対象の広報、垂れ幕の設置など国民への広報や緊急対策状況室の運営、消毒の日(9月23日、9月30日)の運営など、ブロック防疫を強化
- ◆AI拡散防止のために、大規模なイベントの開催や集会・ミーティングの自粛を要請

1. AI発生動向

農林畜産食品部(長官イドンピル)は、9月18日に高病原性AIが確定した全羅南道羅州市と康津郡のあひる農場のほか、全羅南道潭陽郡と光州広域市北区の伝統市場内の家きん

売場（2か所）の常時予察過程でH5N8亜型のAI抗原が検出されたことを、9月21日に明らかにした。

*潭陽郡の潭陽市場と光州広域市北区のミルバ牛市場

○今回の検出事例は、常時予察のために家畜衛生防疫支援本部が9月16日に検体を採取し、農林畜産検疫本部で検査を実施する過程で確認された。

○現在、検疫本部で高病原性かどうかの精密検査を進めており、9月21日（月）午後に最終的な結果が出る予定である。

○当該家きん売場と伝統市場への移動制限、消毒などの緊急防疫措置を実施し、中央疫学調査班を派遣して疫学調査を実施中である。

*発生農家との相互連携等を基に、総合的な疫学調査の結果を分析中

農食品部は現在までに、高病原性AIが発生した2つの農家だけでなく、今回伝統市場で検出されたH5N8亜型のAI抗原も、出荷前検査や伝統市場監視検査など「AI常時予察」の過程で事前に確認されたものであり、常時防疫体系が機能しているものと評価すると明らかにした。

○今後、農食品部は先制的なブロック防疫のために、あひると鶏の飼育農家、野生の渡り鳥、伝統市場などの常時予察を持続推進する計画である。

*常時予察量を2014年比で3.3倍に拡大して実施中（2014年141,000件→2015年480,000件）

2. 関係機関間の協力体系を構築

9月14日のあひる農家では、疑似患畜が発生した後に自治体、検疫本部、防疫本部、農協、生産者団体等の関係機関・団体は、追加発生を遮断するために関連情報を共有し、防疫上の注意などを促進するなど、防疫活動において緊密に協力したと明らかにした。

○疑似患畜発生段階から具体的な防疫措置を頻繁に、家きん農家、畜産関係者などにショートメッセージサービス（SMS）で提供し、情報を共有し、ブロック防疫に参加するように促した。

* 9月15日～9月20日までに、SMSテキストを181,750件発信（農協152,020件、養鶏協会12,000件、あひる協会8,470件、地鶏協会7,200件、ブロイラー協会2,060件）

○また、ホームページにAIの臨床症状、疑い事例申告要領、消毒方法、農家防疫上の注意などの関連資料を共有することにより、畜産農家が簡単に情報を得ることができるように努力した。

*全羅南道は、小規模農家の一斉検査、あひる農場担当公務員制、中間流通業者及び家きん販売店の一斉点検等の推進を実施

3. KTビッグデータベースAI拡散リスク分析結果の共有、ブロック防疫への活用

農食品部は昨年、KTと共同で開発した「ビッグデータベースAI拡散リスクモデル」を利用して、リスクを分析し、その結果を9月18日に自治体等の関係機関に通知して、危険がある地域の消毒や予察強化などのブロック防疫に活用していると明らかにした。

○ただし、他の地域でも発生する可能性が全くないわけではないので、すべての家きん農家及び伝統市場関係者が警戒心を持つよう依頼した。

○リスク分析の結果、16の市・郡、66の邑・面・洞（既存の発生地域を除く）が可能性があるとして分析されており、9つの市・郡・区、17個の邑・面・洞は地理的条件などを見ると、相対的に可能性が高いことが確認された。

* 16の市・郡のうち全羅南道及び光州広域市が15か所、全羅北道が1か所、66の邑・面・洞のうち全羅南道及び光州広域市が64か所、全羅北道が2か所

4. 一時的な移動停止（Standstill）命令の発令結果

農食品部は9月18日00時から19日00時までの24時間の間、全羅南道と光州広域市に発令された「一時的な移動停止（Standstill）」命令に積極的に協力した畜産農家、畜産関連従事者だけでなく、多少の不便を理解し我慢した国民にも感謝していると明らかにした。

○今回の措置は、高病原性AIが確定する前に、危険地域である光州広域市と全羅南道に限って実施することにより、移動停止による国民の不便を最小化し、移動停止期間中に畜産関連施設などを消毒して汚染要因を減らすなどの肯定的な効果があった。

農食品部は今回の措置の適用対象は、国の動物防疫統合システム（KAHIS）基準で畜産農場6千戸、畜産施設5百か所、畜産車両6千台レベルと明らかにした。

○一時的な移動停止命令前・後に、検疫本部、防疫本部、自治体、農協と生産者団体などで村放送8千回、SMS14万件送信など、畜産農家などへの広報を通じて参加を奨励した。

○この期間中に、主要道路などに移動制限検問所を184か所に設置・運営し、移動承認を65件発行した。

○また、自治体は独自の点検班（629人）を構成して、畜産農家や伝統市場など628か所の点検及び遮断防疫上の注意などの教育を行った。

*家きん農家371、関係施設81、伝統市場82、ガーデン型レストラン62など

○Standstillが正しく実施されているかどうかを把握するために、農食品部と検疫本部合同中央点検班（27班、54人）を構成して移動停止対象283か所*をチェックし、合同点検および自治体点検の結果、3件の違反事項を摘発して（消毒未実施1、消毒済証未携帯車両2）罰金処分を要請した。

*家きん農家86か所、畜産施設86か所、拠点消毒設備と移動制限検問所108か所

○参考に、KAHISへの照会を通じた畜産車両運用の実態点検の結果、移動停止命令期間中に移動した事例が562件確認されたが、牛、豚など他畜種車両の移動及び移動承認等によるもので規定違反はないことが確認された。

農食品部は今回の全羅南道と光州広域市に発令した「一時的な移動停止」命令期間中、畜産関連施設や車両の消毒を介して残存している可能性があったAIウイルスが消滅していることを期待すると明らかにした。

5. 秋夕に備えたAI防疫対策推進計画

農食品部は秋夕（動物衛生課注：9月26日～29日）連休期間中、国民の不便を最小限に抑えつつ、AIの拡散を防ぐために、帰省客などを対象に畜産農家訪問自粛を要請し、畜産農家は帰省客の訪問時に消毒などのブロック防疫に努めるよう要請した。

○農食品部は秋夕連休前日の9月25日にKTX駅、バスターミナルなどの主要交通施設を利用する帰省客を対象に広報キャンペーンを実施し、AI発生地域を中心に防疫横断幕の設置、村の放送などを介してブロック防疫を推進する予定である。

*農食品部長官は、龍山駅、次官は江南高速バスターミナルからキャンペーン予定（9月25日）

○畜産農家、と畜場など防疫主体別のAI防疫標準行動要領を作成して畜産農家などに配布し、国際空港で海外旅行者を対象にAI発生国や海外畜産農場訪問を控えること、及び入国時の申告などを促進する計画である。

○また、秋夕の前後である9月23日（水）及び9月30日（水）に、ウイルス拡散防止の

ため、「全国一斉消毒の日」を運営する計画であり、検疫本部を中心に点検班を編成して、農場及びと畜場などで消毒が実施されているかどうかを集中点検する計画だ。

*市・郡保有消毒装置・車両及び農協共同防除団（450班）を活用

これと共に、農食品部などの関係機関は、秋夕連休期間も防疫機関別に24時間緊急事態勤務体系を維持し、AI疑い事例申告に迅速に対応する計画だ。

6. 集会関連への協力要請

最後に、農食品部は高病原性AIの追加発生と拡散を遮断するために、発生地域（市・郡・区）での大規模なイベントの開催や、集会や会議への出席を禁止した。

○非発生地域は自粛するが、やむを得ず実施する場合、会場周辺に靴底消毒槽と人用滅菌装置を設置して消毒するなど、ブロック防疫を積極的に実施することを要請した。

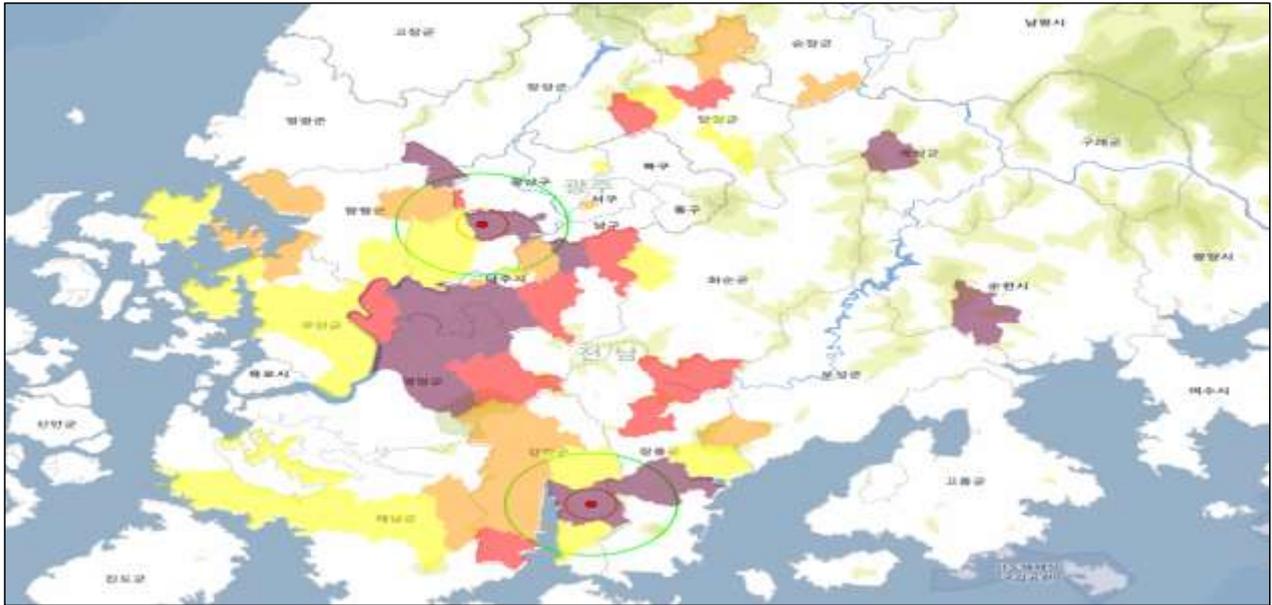
参考 1

KTビッグデータベースAI拡散リスク分析と対象市・郡

□リスク分析の結果に基づく対象市・郡

○今後、16の市・郡及び66の邑・面・洞（既存の発生地域を除く）に拡散する可能性がある」と分析

リスク	地域
高(5)	略
少し高い(4)	略
通常(3)	略
低(2)	略



深刻
 境界
 注意
 関心
 発生農場

参考 2

中央合同点検班点検実績

区分	地域	農家			畜産関係施設	と畜場	移動制御警戒所	拠点消毒施設	備考
		鶏	アヒル	その他					
光州広域市 (5)	東区	1	0	0	6	0	0	0	
	西区	0	2	0	13	0	0	0	
	南区	1	0	2	5	0	0	0	
	北区	3	0	1	5	0	0	0	
	光山区	2	0	0	3	0	1	0	
	小計	7	2	3	32	0	1	0	
全羅南道 (22)	木浦市	1	0	0	3	1	1	0	
	麗水市	3	0	0	1	1	6	0	
	順天市	0	2	0	3	0	3	0	
	光陽市	7	0	0	1	0	7	0	
	高興郡	0	7	0	3	0	2	0	
	宝城郡	1	2	0	0	0	12	0	
	和順郡	4	0	0	3	0	10	0	
	海南郡	2	2	0	3	0	2	0	

靈光郡	2	4	0	5	0	2	0	
莞島郡	3	0	0	2	0	0	0	
珍島郡	1	2	0	1	0	4	0	
新安郡	2	0	0	1	0	1	0	
羅州市	3	0	0	5	2	3	2	
潭陽郡	2	2	0	1	0	0	0	
谷城郡	0	3	0	3	0	5	0	
求礼郡	0	5	0	0	0	8	0	
長興郡	0	3	0	1	1	10	1	
康津郡	0	5	0	3	0	2	1	
靈岩郡	1	1	0	2	0	11	1	
務安郡	3	0	0	2	1	2	0	
咸平郡	2	0	0	2	0	9	0	
長城郡	1	1	0	2	1	2	0	
小計	38	39	0	47	7	102	5	
合計	45	41	3	79	7	103	5	

参考3 秋夕に備えたAI防疫対策推進計画（案）

追加計画

- ◆秋夕期間の帰省客・旅行者を対象に、国民への協力要請および農家の自主的な防疫参加を誘導
- ◆秋夕期間中の流動人口に応じた高病原性AI拡散防止のための関係機関、自治体、民間合同での遮断防疫強化

（国民向けの広報）秋夕連休期間中の帰省客・旅行者に、AI拡散防止のための国民の協力事項について*広報

*畜産農家と渡り鳥の飛来地への訪問自粛要請、消毒及びブロック防疫強化など

- （広報キャンペーン）秋夕帰省客を対象に9月25日（金）に、主要な空港ターミナル、KTX駅を中心に推進キャンペーンを展開
 - 農林畜産食品部長官（龍山駅）、次官（江南高速バスターミナル）
- （垂れ幕・リーフレット広報）国内帰省客と海外旅行者を対象に、機関別にリーフレ

ットを製作・配布、カスタマイズされたプロモーションを展開

－ 市・道（市・郡）と生産者団体は、帰省客が多く目にする高速道路出入口及び村の入口などに広報横断幕を設置

○（村放送などの村単位での広報）渡り鳥の飛来地と畜産施設への訪問自粛やブロック防疫について広報

○（生産者団体による広報）生産者団体ごとに、所属農家の消毒徹底についてSMSテキストで広報

（防疫管理強化）高病原性AIの拡散を防止するために、防疫主体ごとのブロック防疫活動を強化

○（緊急対策状況室運営）連休期間も、防疫機関別に24時間緊急事態勤務体系を維持

○（消毒施設運営）畜産農家と渡り鳥の飛来地に訪問した帰省車両について、消毒施設の運営・消毒実施

－ 市・郡保有消毒装置・車両及び共同防除団の消毒装置・車両を活用

○（特別消毒実施）秋夕前後のウイルス拡散防止のための全国一斉消毒の実施（9月23日、9月30日）

－ 検疫本部では、点検班を編成して、道別の3つの市郡以上の農場及びと畜場などで消毒が実施されているかどうかを確認

○（外国人労働者の管理強化）自治体での外国人労働者の集まりなどの増加予想に沿った農家教育などの管理強化

－ 農家は案内文などで外国人労働者に教育を実施

○（電話予察強化）防疫支援本部からの家きん農家別の電話予察を継続的に実施することによる、疑い事例の早期発見

○（国境検疫強化）検疫本部での、AIなどの流入を防止するための「国境検疫状況室」の運営、海外旅行者への広報及び畜産関係者の管理強化